

安城更生病院広報誌

いんふおめーしょん

2020 JULY No.109

I N F O R M A T I O N K O S E I

ご自由にお持ちください

7



院長
メッセージ

超高齢社会において、「病気を治して命を救う医療」から「より良く生きるを支える医療」への転換が、重要視されるようになりました。その社会的ニーズを支えるのが「脳神経内科」のフィールド。今号は、安城更生病院の「脳神経内科チーム」にスポットをあて、その特徴と社会における必要性をお伝えします。

SPECIAL REPORT

中日新聞「リンク」
LINKED
plus+
病院を
知ろう

治る病気を見逃さない。
治らない病気にも向き合う。
脳神経内科特集

CONTENTS

- 1 安城更生のCURE
- 2 安城更生のCARE
- 3 地域医療情報
- 4 連携医紹介
- 5 NEWS&TOPICS

診療機能のご紹介



今回のテーマ

認知症治療

01 認知症の研究、薬の開発は大きく進化しています。

脳神経内科が扱う代表的な病気の一つに、認知症があります。認知症は一つの病名ではなく、何かの原因で認知機能(記憶や認識、判断など)が低下し、生活に支障をきたしている状態をいいます。主なものとして、脳の神経細胞が減って、脳が小さく委縮してしまうことで症状が現れる「アルツハイマー病」、脳卒中が起こるたびに認知機能が低下する「血管性認知症」、レビー小体という構造物が神経細胞に溜まり、認知症などのさまざまな症状を示す「レビー小体型認知症」があります。

このなかで全体の約60%は、アルツハイマー病です。発症の原因はある種のタンパク質が、脳に蓄積することだと考えられています。現在では研究が進み、タンパク質の蓄積を抑える薬の開発、さらには、認知症を発症する前段階から、タンパク質を除去する治療を開始する治療が進められています。また、約20%を占める血管性認知症では、高血圧など脳卒中の原因をコントロールし再発を予防していきます。そして、その他の認知症の中では約20%がレビー小体型認知症であり、認知症症状をはじめ、さまざまな症状を軽減することをめざして、さまざまな方法を、適切に組み合わせた治療が進められています。

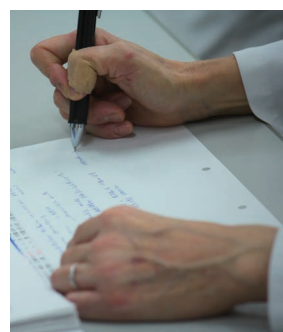


02 ご本人とご家族を支え、適切な治療に全力を注ぎます。

前述のとおり、認知症はさまざまな研究が進み、薬の開発も進化しています。現時点では認知症を根治する治療法は、残念ながらまだありませんが、症状を改善する治療は進歩を遂げており、症状を抑えたり、進行を遅らせたりすることで、ご本人の生活の質を保つ、あるいは上げていくことは可能です。

そのためにも大切なことは、ご家族の認知症に対する理解です。兆候を見逃さない、早めに専門医を受診する、どのタイプの認知症かを知り正しく理解する、温かく見守り適切な援助などを行うことで、症状の出方や進行などが変わってきます。

認知症は高齢になればなるほど、発症しやすいと言われています。わが国では、団塊の世代が75歳以上となる2025年には、認知症を患う人が約700万人に上ると推計されています。当院脳神経内科は、ご本人一人ひとり、そしてご家族を支え、より確かな認知症治療に全力を注いでいきます。



「物語りと対話に基づく医療」の実践を大切にしています。

脳神経内科医は、医療は患者さんからの信頼で成り立つものと考え、信頼関係の構築に努めています。ベースにあるのは、「物語りと対話に基づく医療」。患者さんが語るご本人の人生の物語を受け止め、身体的、精神・心理的、社会的にアプローチしていきます。

もちろん、「科学的な根拠に基づく医療」は不可欠ですが、それだけでは、すべての患者さんに最適とはいえません。患者さんのこれまで生きてきた人生、これから生きていきたい形を聞き、共感し、ご本人の病態、症状にふさわしい治療の提供に力を注いでいます。

脳神経内科 代表部長 川上 治

DOCTOR'S MESSAGE



支援機能のご紹介



今回のテーマ

脳卒中リハビリテーション

01 全身状態を正確に把握し、入院翌日からスタートさせます。

脳卒中を患い、一命を取り留めた患者さんの症状は、疾患や発症前の状態によってさまざまです。治療の成果でほとんど障害が残らない方もいれば、残念ながら重い後遺症が残る方もいらっしゃいます。そうしたケースで重要になってくるのが、リハビリテーションです。

脳卒中のリハビリテーションは、主治医が患者さんの安静度を判断し、リハビリスタッフにリハビリテーション開始を指示すると、すぐに始まります。ほとんどの方が、入院した翌日からスタート。それほど早期に開始する理由は、早期ほどリハビリテーションの効果が上がり、廃用症候群の防止することにあります。廃用症候群とは、安静状態を継続することにより、器官や筋肉の機能が失われたり、萎縮する症状のことで、身体能力の低下や精神状態への悪影響をもたらします。その進行は早く、ことに高齢者はその現象が顕著です。これを防ぐには、できる限り早く体を起こすことが大切であり、過度の安静は、ご本人のその後の自立の妨げに繋がります。もちろん、発症間もない患者さんであるために、不安定なバイタル(呼吸・体温・血圧・脈拍・意識レベル・尿量)を正確に計測し、全身状態をしっかり把握するところから始めていきます。



02 日常生活を再建する手立てを、一緒に考え、組み立てます。

急性期のリハビリテーションでは、体を起こす、ベッドに座る、立ち上がる、食べる、歩くといったことをめざします。その際に私たちが留意するのは、患者さんの精神面です。自分の状態をすぐには受け入れられない。また、今後どうなるのかという不安があって当然です。そうした患者さんの心情を理解し、訴えやお話を

をしっかり受け止めるなど、常に精神的なアプローチを考慮しています。

リハビリテーションの語源は、「再び生活に適する」というものです。後遺症が残る、脳卒中を患う前と全く同じ身体機能ではなくなっても、残った機能に応じて、日常生活を再建する手立てはあります。それをご本人、ご家族と一緒に考え、組み立てていくのがリハビリスタッフ。画一的ではないオーダーメイドの機能回復訓練・指導を提供していきます。



より円滑に次のステージへとバトンを渡すことに注力しています。

脳卒中リハビリテーションは、発症直後から始まり、急性期、回復期、そして、自宅や施設に戻った生活期においても、継続的に必要です。高度急性期病院としてそのスタートを切る私たちは、早期導入を図るとともに、次の回復期病院・病床へと、より円滑にバトンを渡していくことに注力しています。その取り組みの一つとして、回復期病院との地域連携強化を始めました。双方の職員同士が交流を深め、互いの良いところや改善すべき点を見直すなど、患者さんがより良い生活を実現できるよう関係を深めています。

リハビリテーション技術科 課長 畔上佳広

LEADER'S MESSAGE



病院を中心に感染対策のネットワークを構築しています。

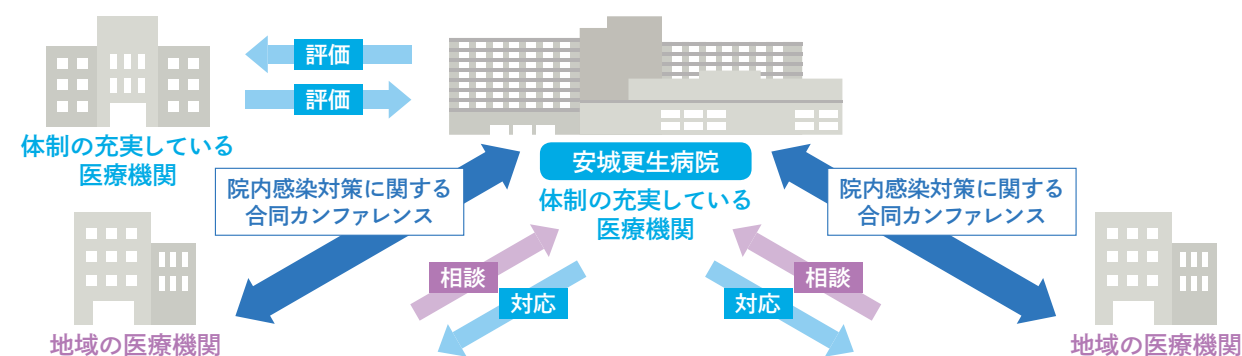
現在、日本の多くの医療機関（主に病院）には、医師、看護師、薬剤師、検査技師等からなる感染対策の専門チームが設置され、そのチームを中心に、情報収集やマニュアル作り、職員教育・指導など、院内感染対策に向けた取り組みが進められています。

さらに、これら医療機関のチームは、地域ごとに集まって感染対策のネットワークを形成。定期的に合同カンファレンスを開くなど、連携しながら地域全体の感染対策に取り組んでいるのです。そのなかでも、地域の基幹病院など、特に体制の充実している医療機関は、他の

医療機関からの感染に関する相談に応じたり、地域の医療機関や介護施設などに出向いて感染対策の講演・指導を行ったりと、地域の感染対策における中心的な役割を担っています。

こうした地域医療機関の取り組みは、「感染防止対策加算」という形で、国の制度上も評価されていますが、近年では地域の感染対策力をさらに高めるため、医療機関だけでなく、保健所や施設、薬局、行政などを含めた、地域全体での感染対策ネットワーク作りも始まっています。

院内感染対策に向けた医療機関のネットワーク



安城更生病院では？

コロナ禍でも命を救い続けられるよう、対策を進めています。

当院は、感染防止対策加算1を算定する病院として、地域の感染対策の中心的役割を担っています。そのなかでも目下最大の課題は「新型コロナウイルス対策」です。現在、感染は少し落ち着いていますが、当院では感染制御部が中心になって、第2波を見据えたマニュアルの整備や備蓄を継続しています。また、西三河南部地域の病院と合同カンファレンスを開催し、情報やノウハウの共有も進めています。

院内の患者さんはもちろんのこと、当院の感染対策では「職員を感染させないこと」が非常に重要です。職

員が感染し診療体制が崩れれば、「命を救う」という当院の責務を果たせなくなってしまうからです。救急医療と感染対策を両立することは簡単ではありませんが、今後も手順やルールを徹底し、職員一人ひとりの意識を高めることで、命と健康を守っていききたいと思います。皆さんも正しいマスクのつけ方、手の洗い方などを意識し、感染対策を続けていきましょう。

感染制御部／感染管理認定看護師
稲富里絵



安城更生病院は、地域医療支援病院として、地域の診療所と連携して地域の医療を守っています。診療所は、日常の健康管理やちょっとした体調の変化などを気軽に相談でき、皆さんにとって最も身近な主治医です。

田中眼科

信頼される白内障日帰り手術クリニックをめざして。

平成14年4月に碧南市に開院しました。安城更生病院には、病診連携でリスクの高い手術などをしていただき、大変お世話になっています。

私が眼科医として最初に赴任したのは安城更生病院でした。その後、名大病院、碧南市民病院などを経て当地に開院しました。生まれは福井県ですが、安城更生病院での経験が、最終赴任地に西三河を希望した理由です。

当院は白内障手術と緑内障診療を中心に、一般眼科、コンタクトレンズ診療もしています。今、新型コロナウイルスが全世界で流行しており、入院を希望されない方が増えています。安城更生病院と連携し、白内障日帰り手術で微力ながら地域医療に貢献したいと思っています。



院長 田中 浩人

碧南市伏見町3-21 TEL 0566-43-5331
<https://hekinan.aichi.med.or.jp/c1/intro/i435331.html>

診療科目 眼科
診療日時 午前 9:00～12:00
午後 3:30～6:30
休診日 火曜(手術日)／土曜午後／日曜／祝日

二本木クリニック

総合内科、消化器内科専門医として地域の皆さまの健康を守ります。

平成28年、安城更生病院を退職し、二本木町に開院してまもなく5年目を迎えます。当院は刈谷市、知立市に近く、同地域からも多くの患者さんに通院いただいております。頭痛、腹痛、痛風、花粉症などの「つらい」病気から、高血圧、糖尿病などの「症状がないが心配」な病気まで、患者さんの不調を解消できる診療を心がけております。

院長は、総合内科専門医・内視鏡専門医・消化器病専門医であり、経鼻の胃カメラや柔軟な大腸カメラを準備するなど、怖いイメージを抱きがちな検査のハードルを下げる工夫をしておりますので、健診で異常が見つかった際にもぜひ受診ください。親しまれ信頼されるクリニックをめざして、スタッフ一同精一杯努力していきますので今後ともよろしくお願いいたします。



院長 馬淵 龍彦

安城市二本木町切替60-2
(県道48号線末広交差点を南へ700m)
TEL 0566-79-0085 <https://niho-cli.com/>

診療科目 内科／消化器内科
診療日時 午前 9:00～12:00 午後 4:00～7:00
休診日 水曜午後／土曜午後／日曜／祝日

SPECIAL REPORT

治る病気を見逃さない。 治らない病気にも向き合う。

脳神経内科特集

どこが悪いのか、なぜ悪いのか
何ができるのか、を考え続ける。



CHAPTER 01 患者に寄り添い、QOLを 高めるのが脳神経内科の役割。

その日、晴れやかな表情と足取りで、安城更生病院を後にする女性がいた。1週間前、脳梗塞(脳の血管が詰まる病気)を発症し、救急車で運び込まれた患者だ。搬送時は右手足が動かず、言葉も出てこない状態で、CT検査などで脳梗塞と診断。幸い、発症から4.5時間以内であったことから、薬剤を静脈内に点滴し、血管に詰まった血栓を溶解する「t-PA治療」が施行された。約1時間の点滴治療で途絶えていた血流を再開でき、早期リハビリテーションの助けもあり、女性は後遺症もなく、退院することができたのだ。

「この15年間で、脳梗塞の治療は大きく進化しました。t-PA治療と、カテーテル(細い管)を用いた血管内治療を積極的に行うことで、脳梗塞の患者さんを重い後遺症から救うことができるようになりました」と語るのは、脳神経内科の川上治代表部長である。同院では、脳梗塞患者には、脳神経内科医が初期対応し、適応があればt-PA治療をおこなう。また、血管内治療の適応があれば、脳神経外科医が対応するという連携体制で治療している。

脳神経内科が担当する病気は、脳梗塞だけではない。「全身に張り巡らされた神経の不調、脳、脊髄、末梢神経、筋肉などで起きたさまざまな疾患を対象にします。簡単に言うと、全身を診る診療科です」と

CHAPTER 02 超高齢化とともに増える 脳神経内科の疾患。

神経の不調全般を診る脳神経内科だが、超高齢社会を迎え、患者は上昇の途をたどっている。たとえば、冒頭に紹介した脳梗塞をはじめ、認知機能が低下する認知症、手足の震えなどの障害が起きるパーキンソン病、てんかん、頸椎症や腰椎症(加齢により脊椎が変形して、手足のしびれや麻痺を起こす病気など、高齢者の疾患には、神経に関わる病気が非常に多い。また、そうした患者のなかには、他の診療科を受診しても原因がわからず、治ることのない痛みやしびれ、脱力などに長年苦しんでいる患者も多い。そして、その患者数は年々、増大しているのだ。

こうした超高齢社会の課題に、脳神経内科はどう応えていくのか。「まずは一人でも多くの患者さんに神経学的診察を行い、診断をつけることが大切だと思います。難しい病気でも、原因がわかり、改善

川上は説明する。但し、脳神経内科医は病気を総合的に診る総合診療医とは「診察のアプローチが異なる」と、安藤哲朗副院長は話す。「私たちの特徴は、神経学的診察です。しびれや麻痺の分布や打腱器を使った診察で、どこが悪いのかを見極め(部位診断)、なぜ悪いのかを考え(質的診断)、そして、私たちに何ができるのかを考えます。神経に関わる病気は、治らない難病もあります。でも、症状を緩和し、QOL(生活の質)を上げることができます。そのために何ができるかを追求します」。

QOLに焦点をあてるために、診察では患者との対話を最重視する。患者一人ひとりの生活、人生に寄り添い、どうすれば症状を和らげ、快適に暮らせるかをとんと考えていくのだ。

COLUMN

● 脳神経内科は全身を診る診療科だけに、横の繋がりが重要になる。脳神経外科、循環器内科、整形外科、リハビリテーション科など、さまざまな診療科と緊密に連携し、治療にあたっている。

● 安城更生病院の強みは、診療科間の垣根の低さだ。川上は「どの診療科もいつでも相談できます。たとえば、脳梗塞の患者さんが救急搬送されれば、脳神経外科医も同時にスタンバイしてくれる。迅速でスムーズな治療を提供できます」と話す。

の見通しを立てられるだけで、患者さんは安心し、前向きに生きていけると思います」(安藤)。さらに安藤は、臨床経験と臨床研究を積み上げ、それを大学の基礎研究へフィードバックすることで、今まで治らなかった病気の新たな病態解明や治療法の開発に貢献することを構想する。「新しい治療法の開発に協力することで、難しい病気を少しずつでも治せるようにしたいんです。幸い、当院には、脳神経内科だけでなく、脳神経外科、整形外科などが連携して多角的に治療に取り組む風通しの良さがあります。この風土を活かし、幅広い疾患について豊富な臨床研究を重ねていきたいと考えています。さらに」と、安藤は話を続ける。「今はまだ治せない病気についても、適切な薬物療法やリハビリテーションなどを通じて、患者さんのQOLをさらに高めていきたいと思えます。治らない病気にも向きあつて、生活を取り戻すために全力を尽くす。そのためにできることを、これからも不断に追求していきます」。

BACKSTAGE

超高齢社会で、圧倒的に不足する脳神経内科医。

● 高齢患者の増加に伴い、脳神経内科へのニーズは増大しているが、脳神経内科医の数は圧倒的に不足しているのが現状だ。「全国的に見れば、現状の2倍くらい脳神経内科専門医が必要だと思います」と、安藤は話す。

● 医師不足を補うため、同院では優秀な専門医の育成に全力を注ぐ。だが、それは一つの病院で解決する問題ではない。社会全体で脳神経内科医の存在を評価し、医師の育成と増強に取り組んでいくべきではないだろうか。



新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う 「電話診察による処方」について

新型コロナウイルスの感染拡大を防止する観点から、当院では4月20日より電話診察による処方を実施しています。電話診察を希望する方は、下記をご確認いただき、お申し出ください。

電話診察の受付

電話番号 (0566)75-2111(代)

受付時間 平日10:00～15:00

※予約日の14日前から予約日の8日前の診療日まで受付

対象となる方

慢性疾患等を有する定期受診患者さんで次回予約があり、これまで処方されていた慢性疾患治療薬の処方を主治医が可能と判断した方。

電話診察は、新型コロナウイルス感染拡大防止策として、臨時的、特例的に厚生労働省より認可された制度です。感染拡大の状況により、電話診察を終了いたしますので、ご承知おきください。

電話診察による処方の流れ

1 代表番号に電話

(0566)75-2111(代)

「電話による処方を希望」とお伝えください。

2 主治医が確認

電話診察が不可能と判断した場合は、予約日前までに連絡します。

3 電話診察

診察予約日当日の予約時間に、当院より電話します。主治医による電話診察の上、処方します。

注意 当日、電話に出られない方はキャンセル扱いとなります。

4 会計・薬引換券のお渡し(来院)

時間内 ▶ 3番窓口

時間外 ▶ 救命救急センター受付

当院にお越しの上、窓口にて診察券をご提示ください。「電話診察で薬が処方されている」旨を申し出てください。

5 薬の受け取り

時間内 ▶ おくすりコーナー

時間外 ▶ 時間外おくすりコーナー

上記にて、電話診察当日の17時以降にお受け取りください。**注意** 原則として院外処方には対応していません。

TOPICS 01

医療物資等のご寄贈に対するお礼

新型コロナウイルス感染症による影響で、全国的に医療物資が不足しており、当院でもその確保に苦慮しています。このような状況のなか、複数の企業・団体、個人の皆さまから当院へ、マスク等医療物資のご寄贈をいただきました。皆さまからのご厚意に対して心から感謝申し上げます。ご寄贈いただいた医療物資は大切に使用させていただきます。

職員一同、今後も地域の皆さまに安心・安全な医療を提供できるよう努めてまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

TOPICS 02

夏休み子ども病院探検隊中止のお知らせ

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、毎年夏に開催しておりました「夏休み子ども病院探検隊」は中止となります。参加を予定されていた皆さまにはご迷惑をおかけしますが、ご理解・ご協力をお願いします。

特設サイト

いんふぉめーしょん
こうせい

地域の皆さまや連携機関の皆さまと「安城更生病院」を情報で繋ぐ、広報誌連動型コミュニケーションサイト。ぜひご覧ください。

こちらから

